

みんなの丹后帖

創刊号 令和元年5月1日発行

令和はじまる

聞き飽きた「平成最後の〜」も終わり方を期して本日、「令和」が始まりました。平成の時の自粛ムードとは違い、天皇退位による改元として年越しの正月のようなお祝いムードで迎えた令和。正月でも祭りでもワクワクすることは、その日を迎えるまでが気分が盛り上がるものですが、さてどうなるでしょう。

改元したからといって、初詣にいくわけでもなく、年賀状が届くわけでもなく、お餅を食べるわけでもなく、さあ何しよう、という感じです。

そうは言っても超大型連休。当面はテレビ等で何でもかんでも「令和最初の〜」が耳につき、日常生活に特に変化はないけど、何となく楽しい感じの日々が続きそうです。一生に何回体験できるかわからないこの歴史的な改元の機会、せっかくなので子供や孫さんにお年玉（改元玉？令和玉？）をあげるとか、お祝いにお餅でも食べてみるとか風流かもしれません。へお餅が食べたくなった場合は下段をご覧ください

さて、私たちの住む丹後町地域でも当然ながら令和が始まりました。64年前の昭和30年、旧丹後町の発足当時の人口は約1万2千人、30年前の平成元年は約

8000人、令和の始まった現在では約5000人となりました。人口シユミレーションによれば、特に手を打たない限りその速度は加速し、20年後には今の半分の2500人になると予測されています。特に何もしなくても、平成が終わる令和が始まり、時は勝手に過ぎていきますが、何もしなければ人も自然に減っていきます。さー、どうしましょう。

名案がなくても、何もしないよりは何かをした方がマシ。ということで、本日令和初日のお祝いムードに便乗してミニコミ誌「みんなの丹后帖」を始めます。

みんなの丹后帖を作るのは、みんなの丹后帖プロジェクトチームのメンバー。面白いミニコミになるのか、しょうもないミニコミになるのか、滅多に発行されない希少なミニコミとなるのか、うっとしいほどこいつも目にするミニコミとなるかは全てそのメンバー次第です。メンバーには、色々なタイプの人がいます。歴史に詳しい人、地学に詳しい人、何もしたくない人、面白い人、絵が上手な人、俳句が好きな人、それぞれ得意な分野の知識、作品などを発表できる場がこの「みんなの丹后帖」です。

改元に便乗という安易な発想で始めるので、どんな周期でいつ発行されるのか

もどんな内容になるかわかりません。事務局でさえも・・・

ただ一つだけ決まっています。それは、「地域を楽しくする」とい

いくら美味しいカニや魚があっても、きれいな自然があっても楽しくなければ意味がありません。楽しい町には人が集まります。人が増えるかもしれません。「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ・希望に満ち溢れた新しい時代を切り開いていく」をスローガンにとりあえず始めます。（どっかで聞いたような!）

最後に、みんなの丹后帖プロジェクトチームのメンバーを発表します。

メンバーはあなたです!

つまり、この文章を読んでいる人みんながメンバーです。あなた次第で、楽しいミニコミ誌になるのか、つまらなくなるのか、楽しい町になるのか、廃れた町になるのかが決まります。何はともあれ、新時代スタート。子供からお年寄りまで楽しめることを始めます。

募集します

地区自慢・丹後に關するコラム・俳句・川柳・企業スポンサー・イラスト・4コマまんが・題字などなど
下記まで

みんなの丹后帖事務局 (中江新聞店)

☎ 090-9711-3530
FAX 0772-66-3948
Eメール:ixwish@me.com

本日の「柏餅」注文受付は
午前4時～午前6時、午後10時～午後5時

企業様へ

わくわく玉手箱企画では、他市他府県の新聞販売所とも提携し丹後の特産品などの販売や宣伝をしています。

販路拡大、効率的な宣伝、地域のイメージアップなどに興味がある方はご相談ください。

わくわく玉手箱のコーナー ○地元の人気商品をご紹介します、電話1本で注文できるコーナーです。商品は後日ご自宅までお届けします○商品代金は新聞代と一緒に支払い可!○手数料1回あたり50円(お買上げ合計1,000円以上で無料)



5個入り 650円 税込

こしあんかつぶあんを
ご指定ください。

※竹田店舗でも同価格で販売しています。

ご注文は今すぐ左記事務局まで 注文締切 5/3 お届け 5/3 ~ 5/5

かしわもち

御菓子司
竹田

京都市内の老舗の和菓子専門店「和菓子職人」として永年つとめた間人小泊の竹田さんの柏餅。熟練の技術は、安定のおいしさに表現されています。たんごの節句にいかがですか。

丹語

中国語では丹後(たんご)は丹后。古代から後の意味として后が併用されてきました。近代、后に統一されました。最近は見かけませんが日本でも後の意味として后が使われていました。間人の宮地医院では午後休憩だったような▼江戸時代の古文書や明治の古地図には「丹后国」の表記が見られます。本来の丹後を丹后としたことに意味があったのか略しただけなのか▼6世紀用明天皇のお后、間人皇后は大和から遙か遠い丹波国の大浜の里に避難してきました。その村は皇后にちなみ間人村としたと伝わります。そして后が愛したその地の浜を后ヶ浜(現後ヶ浜)とした:というのは今作り出したが無きにしもあらずかも▼間人皇后の義息子で聖徳太子の異母弟の当麻皇子は丹後の鬼を退治し、最後の1匹は生きたまま立岩に閉じ込めたと伝わります▼立岩の前には平成の初め間人皇后像が建てられました。日本最古の歴史書日本書紀よりも古い法隆寺釈迦三尊像光背には間人皇后のことは鬼前太后と刻まれています。后ヶ浜の鬼が閉じ込められている立岩の前に「鬼前太后」像設置。偶然なのか敢えてなのか▼わからないことだらけの丹後。わからないことや知っていること、その他いろいろ皆さんが気軽に参加できるのが「みんなの丹后帖」です。ちゃんとした帳面よりは気軽にメモ書きできる手帖のイメージで令和と共に00から始まります。令和の後の時代にも存在することを祈って。この丹後町も丹后帖も。(T)